

インターカルチュラル・カフェ キックオフ	
開催日時	2022年11月25日(金) 15:00~16:30
テーマ	多様な地域の異文化間教育から考える
登壇者	高橋春菜会員(盛岡大学) 菊地かおり氏(筑波大学) 非会員 島埜内恵氏(白鷗大学) 非会員
開催状況	
参加者数	総数 34 名 ※zoom にアクセスした最大参加者数。
企画運営	企画委員: 渋谷恵(全体進行)、伊藤亜希子(司会、登壇)
進行	趣旨説明 各登壇者の自己紹介(研究紹介) ○本日のテーマ 何をどう「異文化間教育」と考えればいいのかのろう?~外国をフィールドにする私の捉え方~  「異文化間教育」という名称が使われていなくても、「異文化間教育的」なものがあり、それを外国をフィールドにするなかでどう捉え、位置づけているのか。今回はヨーロッパを中心に、高橋会員よりイタリア、島埜内氏よりフランス、菊地氏よりイギリス、伊藤よりドイツについて簡単な話題提供を行い、それぞれにやりとりをした。
振り返り	本企画は、「異文化間教育」というタームを使わなくとも、「異文化間教育的」なものを研究テーマにしている会員および非会員に話題提供を依頼した。3名より快諾いただき、伊藤を含め4名が90分で話すというのにはやや時間的な制約が大きかったように思われる。また、登壇者には事前に気軽に語り合う会なので準備は不要と伝えていたものの、研究発表的になってしまったところも一部あり、もう少し気軽に参加して話を楽しむイメージを抱いていたであろう参加者からは、「難しかった」という感想や学生会員からは「質問しにくかった」という感想もあげられていた。その一方で、正会員からは「温かい雰囲気よかった」「有意義で気楽に参加できる集まりでした」と感想があるなど、当然ではあるが受け止め方がさまざまであった。今回、司会をするなかで特に難しさを感じたのは、チャットへの書き込みを促してもなかなか反応がなく、参加者を巻き込んでの議論にうまく発展させることができなかった点である。企画委員会で報告した際に、チャットでうまく議論を活

	<p>性化させるような書き込みをしてくれる人をあらかじめお願いするのもいいのでは、という助言も得た。次回に向け、登壇者数や実施スタイルをもう少し検討していきたい。</p> <p>なお、移民や難民をめぐる教育について制度や実践の話を数カ国まとめて聞く機会はあまりなく、深めることはできなかったが、まとめて情報に触れることができたり、欧州諸国間での共通点や相違点に登壇者が気づく場面もあり、内容としては有意義なものとなったのではないかと思われる。</p> <p>今回は、今回のテーマをアジアに広げ、アジア諸国をフィールドに研究する会員を招き、アジアにおける異文化間教育ないしは「異文化間教育的」なものについて情報交換や交流ができればと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(文責・伊藤)</p>
<p>アンケート 抜粋</p>	<p>○感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。専門性が高く難しい部分もありましたが、一度に4か国の概要がわかり大変興味深かったです。私自身が研究者として駆け出しのなかで、研究に対する向き合い方も学ばせていただきました。多文化共生を異文化共生とは言わないのはなぜだろうか、普段使い慣れた言葉を一つ一つ見直すきっかけとなりました。</li> <li>・ 話が満載でとても興味深かったです。国別のお話は大変ありがたく感じています。ただ、プレゼンテーションの時間が長くなかなか質問する勇気が出ず、それはそもそも私に問題があるわけですが、次回以降は発表時間を短めに、お話しする時間がもう少しいただけたら非常に助かります。</li> <li>・ とても温かい雰囲気でもよかったと思います。欲を言えば、答えに窮するような質問を投げる悪役(?)がいてもよいような気もしました。ありがとうございました。</li> <li>・ 諸先生方の研究フィールドや研究対象国、また異文化間教育での「核」となるテーマについても伺うことができ、とても興味深く拝聴させていただきました。</li> <li>・ 今回はこれでよかったと思います。今回は、事前に資料をご提示いただき、ブレイクアウトルームで分科会があると、少人数で話し合うことができるかと思いました。例えば、4名の先生方のご専門の国別でもよかったかもしれません。お一人ずつ、モデレーターとして入っていただくとよいかと思います。</li> <li>・ 初歩的な疑問・見解で大変恐縮ですが、異文化間教育で取り扱う『inter-(あいだ)』という概念、その根底にあるものを含め、比較研究において研究対象の対極にあるものは何なのか(=何との「比較」なのか)、より関心を抱きました。</li> </ul>

「比較の視点を持つ」という場合、必ずしも「日本との比較」というわけではないことや、文化における対峙関係の当事者、異なる国家間、マイノリティとマジョリティ、格差のある地域間などさまざまということ。そのような「何(どこ)」を比較する研究領域なのか、そのあたりもさらに深堀したい、と思ったのが率直な感想です。(非会員)

○今後希望するテーマについて

- ・ 異文化で「暮らす」と「学ぶ」と「働く」をテーマに話してみたいです。
- ・ 特に異文化間教育にまつわるテーマの最近の動向について、それぞれの研究者の方がどう見ているか。
- ・ 過去の日本からの移民についての研究とこれからの日本の移民社会研究。
- ・ アフリカやラテンアメリカからの他の地域への移民研究とそういった人々の日本への移民研究。
- ・ 教育実践の報告会など！
- ・ 異文化間教育研究における方法論や、人権教育・質的研究における倫理について、など。
- ・ 外国での調査についてのアップデートされた情報が知りたい。アンケート調査、インタビューなどの研究方法で、外国で研究倫理の承認を得る方法、調査協力者の探し方など。

○企画委員会への要望

- ・ padlet など使用すると、より交流が生まれるのではないかと思います。
- ・ 子ども以外の主体や、国際以外の文化間、教育制度の外の学びも対象とする機会の提供がありといいのではないかと思います。
- ・ 非会員も参加できる企画があれば今後も参加したいです。